

近現代東北アジア地域史研究の10年 — 1989～1997年 —：文献目録

西村成雄、松重充浩編

まえがき

井村 哲郎

この目録は、1998年12月の近現代東北アジア地域史研究会大会に提出された「20世紀中国東北地域史の10年—歴史意識の流れと新たな方向—<資料集 第1稿>」（西村成雄、松重充浩、康越、上田貴子、田淵陽子編纂）を部分的に修正し、執筆者名のアルファベット順に並べ直したものである。もとの目録が、採録にあたって典拠としたのは、1989～1997年については、『史学雑誌』の「回顧と展望」、松本俊郎「1930年代の『満洲』問題を対象とする研究所・研究論文の目録 1989-1990年代の出版物を中心に」、松重充浩「1990年代以降の日本における近代中国東北地域史関聯專著単行本リスト」を、また1998年分については、『史学雑誌』「文献目録（東洋史II）」、『東洋史研究』の「近刊叢欄」『史学雑誌』、『東洋史研究』、『アジア経済』、『社会経済史学』のこの年の各号である。

この目録は1980年代終わりから90年代にかけて、日本国内においてなされた近現代東北アジア地域史研究の全容を明らかにする試みの一つとして編纂されたものであるが、もともと近現代東北アジア地域史研究会大会のために編纂されたということもあって、対象とする時期の日本に於ける近現代東北アジア地域史関係文献目録としては網羅性に欠けている。たとえば、この時期に日本国内の機関で盛んに編纂された資料目録や文献目録は収録されていないし、また資料として価値のある回想録などの採録洩れもある。これは、『東洋学文献類目』（京都大学人文科学研究所附属東洋学文献センター）、『発展途上地域日本語文献目録』（アジア経済研究所図書資料部）、『雑誌記事索引』（国立国会図書館）などからの採録を行わなかつたためであろう。また、いうまでもないことであるが、もとの目録が編纂された後、1998年から2000年までの文献も収録していない。

しかし、これまで近現代東北アジア地域史にかかわる刊行物については、

これまで本格的な目録が編纂されていないために、「予備版」あるいは「暫定版」としての価値は十分にあるために、本号に掲載することとした。本来であれば、もっと早くに掲載し、その後のフォローを行うべきであったらうが、その作業はなおなされていない。本目録を基礎に、1998年以降の研究状況あるいは問題関心を反映させるとともに、本目録の対象としている時期についても、収録渋れを補う作業を今後行うことによって、より完全な目録を編纂することを目指すことが必要である。また、本目録では、外国における文献を収録していないが、今後これらも補充していく必要があろう。21世紀を迎える節目ということに研究上の意味はあるわけではないが、本年までの研究状況や資料状況をできるだけ完全におさえることは、今後の研究の進展のために重要なばかりでなく、新たに研究する場合にも有用なものとなろう。

現在ではさまざまな図書館のWeb page や NACSIS Webcat などで、必要な文献は検索できるが、それでも雑誌論文、単行書・叢書の章別索引、資料集などを網羅した主題書誌の必要性は決して弱まっていない。むしろそれぞれの文献の内容までを吟味して収録した目録（および解題）の重要性、すなわち研究ガイドや研究のための資料ガイドの必要性は今後もさらに強まるものと考えられる。

この目録を基礎に、本研究会会員の知る文献を集成し、それをいつでも誰でもが利用できるように共有することが必要であろう。印刷体の目録は研究の深化のためには、今後も重要な役割を果たすと考えられるが、同時に Web page 上で公開することも必要であろう。

なお、記述の不足はできるだけ補ったが、短期間の作業であったために、全てを修正できたわけではない。この点も今後修正していく必要がある。

（にしむら しげお：大阪外国语大学、まつしげ みつひろ：
県立広島女子大学、いむら てつお：新潟大学人文学部）

近現代東北アジア地域史研究の10年 — 1989～1997年—：文献目録

A

- 阿部洋「中国近代学校史研究」福村出版, 1993年。
愛新覚羅溥傑著 金若静訳『溥傑自伝』河出書房新社, 1994年。
愛新覚羅頴萃・江守五夫共編『満族の家族と社会』第一書房, 1996年。
愛新覚羅頴琦『清朝の王女に生まれて』中央公論社, 1990年。
秋永芳郎『満州国』光人社, 1997年。
秋永芳郎『満州国—虚構の国の彷徨—』光人社, 1991年。
安藤彦太郎編『近代日本与中国』汲古書院, 1989年。
蘭信三『「満州移民」の歴史社会学』行路社, 1994年。
浅田喬二「満州農業移民と農業・土地問題」小林英夫編『近代日本と植民地
3 植民地化と産業化』岩波書店, 1993年。
浅田喬二「戦前日本における植民政策学の二大潮流について」『歴史評論』
513, 1993年。
浅田喬二『増補 日本帝国主義と植民地地主制—台湾・朝鮮・「満洲」にお
ける日本人大土地所有の指摘分析』龍溪書舎, 1989年。
浅田喬二編『近代日本と植民地 4 統合と支配の論理』岩波書店, 1993年。

B

- Batbayar. Ts, Sharukhun. D 「1920年代におけるモンゴル・ロシア関係とウリ
ヤンハイ問題」『一橋論叢』1998年。

C

- 陳志山訳『馬占山と満州—英雄・烈士となった元馬賊の生涯—』エイジ出版,
1990年。
張承志 梅村坦編訳『殉教の中国イスラム』亜紀書房, 1993年。
趙雲鵬 潤谷由里訳「中国遼寧省档案館所蔵歴史文書とその利用」『アジア
経済』37-5, 1996年。

中国朝鮮族青年学会編 館野哲他訳『聞き書き中国朝鮮族生活誌』社会評論社, 1998年。

中国引揚げ漫画家の会編『ボクの満州—漫画家たちの敗戦体験』亜紀書房, 1995年。

D

ドムチョドロップ著 森久男訳『徳王自伝』岩波書店, 1994年。

E

易顕石『日本の大陸政策と中国東北』六興出版社, 1989年。

江成常夫『まぼろしの国・満州』新潮社, 1995年。

江夏由樹「中国史における異民族支配の問題」『一橋論叢』114-4, 1995年。

江夏由樹「奉天地方官僚集団の形成」『一橋大学研究年報 経済学研究』31, 1990年。

江夏由樹「近代中国の旧奉天地方権力と地域エリート」『歴史学研究』651, 1993年。

江夏由樹「近代東三省社会の変動」溝口雄三ほか編『周縁からの歴史』1994年。

江夏由樹「旧奉天省撫順の有力者張家について」『一橋論叢』102-6, 1989年。

江夏由樹「旧錦州官莊の莊頭と永佃戸」『社会経済史学』54-6, 1989年。

江夏由樹「満州国の地籍整理事業について」『一橋大学研究年報 経済学研究』37, 1996年。

江夏由樹「辛亥革命後、旧奉天省における官地の払い下げ」『東洋史研究』53-3, 1994年。

江夏由樹「辛亥革命後の盛京戸部官莊の払い下げについて」『清代史論叢：松村潤先生古希記念』汲古書院, 1994年。

江夏由樹「清末、旧奉天省における地主制の再編成」史学会編『アジア史からの問い』山川出版社, 1991年。

江夏由樹「土地利権をめぐる中国・日本の官民関係」『アジア経済』38-1, 1997年。

遠藤興一「植民地支配下の満州社会事業」『明治学院論叢：社会学・社会福祉学研究』454, 1990年。

遠藤興一「満州社会事業の実施状況について」『明治学院論叢：社会学・社会福祉学研究』86, 1991年。

遠藤隆俊「作為された系譜」『集刊東洋学』(東北大学中国文史哲研究会) 75, 1996年。

遠藤隆俊「范文程とその時代」『東洋史論集』(東北大) 6, 1995年。

F

夫馬進「趙憲『東還封事』にみえる中国報告」『辺境社会』1989年。

夫馬進「閔鼎重『燕行日記』に見える王秀才問答について」『民族問題』1991年。

古市大輔「光緒初年盛京行政改革の財政的抨啓—東三省協餉の不足と養廉確保の意図—」『東洋学報』79, 1997年。

古市大輔「清代乾隆年間の採買政策と奉天華北への奉天米移出」鈴木将久ほか編『小冷賢一君記念論集』東京大学文学部中文研究室, 1993年。

古市大輔「清代後期の盛京行政とその変容」『史学雑誌』105-11, 1996年。

古厩忠夫「環日本海地域の歴史像」古厩忠夫編『東北アジア史の再発見—歴史像の共有を求めて』有信堂高文社, 1994年。

古厩忠夫編『東北アジア史の再発見—歴史像の共有を求めて』有信堂高文社, 1994年(環日本海叢書 3)。

二木博史「ダムバドルジ政権の敗北」『東京外国語大学論集』42, 1991年。

二木博史「モンゴル人民党第一回大会とブリヤート人革命家たち」『一橋論叢』120-2, 1998。

二木博史「モンゴル人民党成立史の再検討—『ドクソムの回想』を中心に—」『東京外国語大学論集』49, 1994年。

二木博史「リンチノとモンゴル革命」『東京外国語大学論集』51, 1995年。

二木博史「大モンゴル国臨時政府の成立」『東京外国語大学論集』54, 1997年。

古屋哲夫「『満洲国』の創出」山本有造編『『満洲国』の研究』京都大学人文科学研究所, 1993年。

G

「外務省警察史 3 满州の部」不二出版, 1997年。継続復刻。

『現代中国研究案内』岩波書店, 1990年(岩波講座現代中国 別冊 2)

- 浜口裕子「満洲事変と中国人」『法学研究』(慶應義塾大学法学研究会) 64-11, 1991年。
- 浜口裕子『日本統治と東アジア社会—植民地朝鮮と満洲の比較研究—』勁草書房, 1996年。
- 浜口裕子「橋樸と石原完爾—『東洋民族解放論』と東亜連盟論」山本秀夫編『橋樸と中国』勁草書房, 1990年。
- 浜口裕子「一九三〇年代半ばの対満蒙政策立案に関する一考察」中村勝範編『近代日本政治の諸相』慶應通信, 1989年。
- 浜口裕子「『満洲国』の中国人官吏と関東軍による中央集権化政策の展開」『アジア経済』34-3, 1993年。
- 濱下武志「朝貢と条約—東アジア開港場をめぐる交渉の時代一八三四—一九四」 溝口雄三ほか編『周縁からの歴史』東京大学出版会, 1994年。
- 濱下武志「東アジア史に見る華夷秩序」『国際交流』62, 1993年。
- 原暉之『シベリア出兵 革命と干渉 1917-1922』筑摩書房, 1989年。
- 原暉之『ウラジオストック物語』三省堂, 1998年。
- 原田環「清における朝鮮の開国近代化論」『史学研究』203, 1993年。
- 畠中幸子・原山煌編『東北アジアの歴史と社会』名古屋大学出版会, 1991年。
- 波多野太郎監訳『溥儀—1919～1924 紫禁城の廐帝—』東方書店, 1991年。
- 東アジア近代史学会編『日清戦争と東アジア世界の変容』上・下, ゆまに書房, 1997年。
- 広田鋼藏『満鉄の終焉とその後—ある中央試験所員の報告—』青玄社, 1990年。
- 菱木正晴「東西本願寺教団の植民地布教」浅田喬二編『近代日本と植民地 4 統合と支配の論理』岩波書店, 1993年。
- 本多健吉ほか『北東アジア経済圏の形成』新評論, 1995年。
- 堀千鶴子「大連婦人ホームにおける婦人救済事業の実態とその意義」『御茶の水女子大学女性文化研究センターワーク』8, 1995年。
- 星野昌裕「中国共産党の民族政策の一考察」『法学政治学論究』(慶應義塾大学院法学研究科) 27, 1995年。
- 細谷良夫「莫力達瓦達斡爾族自治旗図書館の満文本」『満族史研究通信』2, 1992年。

細谷良夫「マンジュ・グルンと『満洲国』」柴田三千雄ほか編『シリーズ世界史への問い 8 歴史のなかの地域』岩波書店, 1990年。
細谷良夫「清朝勃興期の史跡」『秋大史学』36, 1990年。

I

- 飯島渉「中国近代における常閏制度」『社会経済史学』56-3, 1990年。
飯島渉「近代中国における公衆衛生と検疫」『歴史学研究』704, 1997年。
生駒政則「中国革命と内モンゴル問題」池田誠ほか編『中国近代化の歴史と展望』法律文化社, 1996年(20世紀中国と日本 下巻)。
生駒雅則「ダムバドルジ政権下のモンゴル」狭間直樹編『一九二〇年代の中國』汲古書院, 1995年。
生駒政則「ジャー・ラマとコブド問題—モンゴル人民共和国形成期における民族問題の一考察」『史林』72-3, 1989年。
生駒政則「シベリア内戦とブリヤート・モンゴル問題」『スラヴ研究』41, 1994年。
今井駿「張学良と西安事変」『季刊中国』20, 1990年。
井村哲郎編『満鉄調査部—関係者の証言—』アジア経済研究所, 1996年。
井上晴樹『旅順虐殺事件』筑摩書房, 1995年。
井上勇一『鉄道ゲージが変えた現代史—列車は国家権力を乗せて走る—』中央公論社, 1990年(中公新書)。
井上勇一「東支鉄道をめぐる日ソ関係」小林英夫編『近代日本と植民地 3 植民地化と産業化』岩波書店, 1993年。
石堂清倫『大連の日本人引揚の記録』青木書店, 1997年。
石橋秀雄「清朝入關後のマンジュ(Manju) 満洲の呼称をめぐって」石橋秀雄編『清代中国の諸問題』山川出版社, 1995。
石橋秀雄「清初のハン Han」『歴史と地理』453, 1993年。
石橋崇雄「マンジュ王朝論」森正夫ほか編『明清時代の基本問題』汲古書院, 1997年。
石橋崇雄「満文『hani araha gucu hoki i leolen.(御製朋党論)』」『國士館史学』4, 1996年。
石橋崇雄「hani araha manju gisun i buleku bithe, (御製清文鑑)」『國士館大学文学部人文学会紀要』別冊1, 1989年。
石田浩『中国農村の歴史と経済』関西大学出版会, 1991年。
石上正夫『平頂山—消えた中国の村—』青木書店, 1991年。

- 石井明「領土紛争の盛衰」『国際問題』445, 1997年。
- 石井明『中ソ関係史の研究 一九四五—一九五〇』東京大学出版会, 1990年。
- 伊藤昭雄「樺太と満州協和会—『農民自治』と『民族協和』」山本秀夫編『樺太と中国』勁草書房, 1990年。
- 伊東隆・滝沢誠監修「明治人による近代朝鮮論影印叢書」ペリカン社, 1997年。
- 岩井茂樹「十六・十七世紀の中国辺境社会」小野和子編『明末清初の社会と文化』京都大学人文科学研究所, 1996年。
- 岩井茂樹「乾隆期の『大蒙古包宴』」『民族問題』1991年。
- 『岩波講座現代中国』1989年。
- 岩武照彦「中国占領地の経済施策の全貌」『軍事史学』130, 1997年。
- 岩武照彦『近代中国通貨統一史——五年戦争期における通貨闘争』上・下, みすず書房, 1990年。

J

- 聶莉莉「劉堡」東京大学出版会, 1992年。
- 徐越庭「日清修好条規の成立」(一)(二)・完『大阪私立大学法学雑誌』40-2, 3, 1994年。
- ジョイヨー, フランソワ著 中嶋嶺雄・渡邊啓貴訳『中国の外交』白水社, 1995年。
- 『十五年戦争極秘資料集』不二出版, 1997年。

K

- 蔭山雅博「清末奉天省の教育近代化過程」『学習院大学東洋文化研究所調査研究報告』40, 1993年。
- 郭富光「中国遼寧省の民間説話」『立命館文学』552, 1998年。
- 姜在彦『満洲の朝鮮人パルチザン 1930年代の東満・南満を中心として』青木書店, 1993年。
- 神戸輝夫・黒屋敬子「吳祿貞と間島問題」『大分大学教育学部研究紀要』14-1, 1992年。
- 神戸輝夫・黒屋敬子「初期間島問題における日清間の紛争事件」『大分大学教育学部研究紀要』14-1, 1992年。

- 神田信夫『日本所在清代档案史料の諸相』東洋文庫清代史研究室, 1993年。
- 金子文夫『近代日本における対満州投資の研究』近藤出版, 1991年。
- 片岡一忠『清朝新疆統治研究』雄山閣, 1991年。
- 加藤直人「莫力達瓦達斡爾族自治旗の満文資料」『満族史研究通信』3, 1993年。
- 加藤直人「大興安嶺地区における『民族』と『地域』—光緒11年, 布特哈衙門副總官ボドロの上訴をめぐって」『歴史学研究』698, 1997年。
- 加藤祐三編著『近代日本と東アジア』筑摩書房, 1995年。
- 川久保悌郎「柳条辺牆管見」『東洋学報』71-3・4, 1990年。
- 川村湊『異郷の昭和文学「満州」と近代日本』岩波書店, 1990年。
- 川村湊編『近代日本と植民地 7 文化の中の植民地』岩波書店, 1993年。
- 川野幸男「中国人の東北(旧満州)移民を再考する—労働力移動と霸権サイクルー」『東京大学経済学研究』36, 1996年。
- 風間秀人「『満州国』における農民層分解の動向」『アジア経済』30-8, 9, 1989年。
- 風間秀人『満州民族資本の研究』緑陰書房, 1992年。
- 喜田昭治郎「中国と朝鮮戦争」『アジア研究』39-3, 1993年。
- キム・チョンミ(金静美)「中国東北部における抗日朝鮮・中国民衆史序説」現代企画室, 1992年。
- 金鳳珍「東アジア三国の「開国」と万国公法の受容」『紀要』(北九州大学外国語学部) 84, 1995年。
- 金贊汀『パルチザン挽歌』御茶の水書房, 1992年。
- 貴志俊彦「袁世凱政権の内モンゴル地域支配体制の形成」『史学研究』185, 1989年。
- 岸田五郎『張学良はなぜ西安事件に走ったか』中央公論社, 1995年。
- 北野憲二『満州皇帝の通化落ち』新人物往来社, 1992年。
- 北大路健編著『さらば大連・旅順』国書刊行会, 1995年。
- 賈英華『愛新覺羅溥儀—最後の人生—』時事通信社, 1995年。
- 小林英夫編『近代日本と植民地 3 植民地化と産業化』岩波書店, 1993年。
- 小林英夫『満鉄—「知の集団」の誕生と死—』吉川弘文館, 1996年。
- 小池聖一「『国家』としての中国,『場』としての中国」『国際政治』108, 1995年。
- 駒込武「『満州国』における儒教の位相」『思想』841, 1994年。
- 小峰和夫『満洲一起源・植民・霸権』御茶の水書房, 1991年。
- 近藤富成「清朝後期の地方都市の構造」『中国史学』3, 1993年。

近藤富成「清代帰化城遠隔地交易路」『人文学報』(東京都立大学人文学会) 257, 1995年。

越沢明『哈爾濱の都市計画』総和社, 1989年。

久保尚之『満州の誕生』丸善, 1996年。

倉橋正直『からゆきさんの唄』共栄書房, 1990年。

倉橋正直『北のからゆきさん』共栄書房, 1989年。

栗原純「日清戦争と講和交渉」『史論』(東京女子大学学会史学研究室) 45, 1992年。

楠木賢道「チチハル駐防シボ佐領の編立過程」石橋秀雄編『清代中国の諸問題』山川出版社, 1995年。

楠木賢道「康熙三〇年のダグール駐防佐領の編立」『清代論叢: 松村潤先生古稀記念』汲古書院, 1994年。

楠木賢道「黒龍江將軍衙門档案からみた康熙二三年の露清関係」『歴史人類』(筑波大学歴史人類系) 24, 1996年。

M

幕内満雄『満州国警察外史』三一書房, 1996年。

『満蒙』不二出版, 1997年。

丸山鋼二「中国共産党『満州戦略』の第一次転換」『アジア研究』39-1, 1992年。

増井寛也「満族ギヨルチャ・ハラ考」『立命館文学』544, 1996年。

増井寛也「明末建州女直のワンギヤ部とワンギヤ・ハラ」『東方学』93, 1997年。

松本一男『張学良一忘れられた貴公子』中央公論社, 1991年。

松本一男『張学良と中国一西安事変の立役者の運命』サイマル出版会, 1990年。

松本俊郎「満洲鉄鋼業開発と『満洲国』経済—1940年代を中心にして」山本有造編『「満洲国」の研究』京都大学人文科学研究所, 1993年。

松本俊郎「一九四〇年代後半の昭和製鋼所の操業状態について」I~III, 『岡山大学経済学会雑誌』26-3・4, 27-1, 3, 1995年。

松本俊郎『侵略と開発—日本資本主義と中国植民地化』御茶の水書房, 1992年。

松村高夫ほか著『戦争と疫病 七三一部隊のもたらしたもの』本の友社, 1997年。

- 松村嘉久「中国における五自治区の領域画定の過程」『中国研究月報』596, 1997年。
- 松村嘉久「中国における民族自治地方の設立過程と展開」『人文地理』49-4, 1997年。
- 松野周治「関税および関税制度から見た『満洲国』」山本有造編『「満洲国」の研究』京都大学人文科学研究所, 1993年。
- 松重充浩「張作霖による在地懸案解決策と吉林省督軍孟恩遠の駆逐」横山英・曾田三郎編『中国の近代化と政治的統合』溪水社, 1992年。
- 松重充浩「外務省外交史料館所蔵史料利用手引き」『近きに在りて』21, 1992年。
- 松重充浩「『保境安民』期における張作霖地域権力の地域統合策」『史学研究』186, 1990年。
- 松重充浩「奉天における市政導入とその政策意図について」今永清二編『アジアの地域と社会』勁草書房, 1994年。
- 松重充浩「国民革命期における東北在地有力者層のナショナリズム」『史学研究』(216), 1997年。
- 松重充浩「王永江の内外認識と東北統治理念」曾田三郎編『中国近代化過程の指導者たち』東方書店, 1997年。
- 松重充浩「『北京政府』下の国民国家形成と東北地域」池田誠・上原一慶・安井三吉編『中国近代化の歴史と展望』法律文化社, 1996年。
- 松浦章「袁崇煥と朝鮮使節」『史泉』69, 1989年。
- 松浦章「康熙盛京海運と朝鮮賑濟」石橋秀雄『清代中国の諸問題』山川出版社, 1995年。
- 松浦章「明朝末期の朝鮮使節の見た北京」岩見宏・谷口規矩雄編『明末清初期の研究』京都大学人文科学研究所, 1989年。
- 松浦章「清代末期の沙船業について」『関西大学文学論集』39-3, 1990年。
- 松浦茂「一八世紀のアムール川中流地方における民族の交替」『東洋学報』79-3, 1997年。
- 松浦茂「十八世紀アムール川下流地方のホジホン」『東洋史研究』55-2, 1996年。
- 松浦茂「十七世紀アムール川中流地方住民の経済活動」『東方学』95, 1998年。
- 松浦茂「康熙前半におけるクヤラ・新滿州佐領の移住」『東洋史研究』48-4, 1990年。
- 松浦茂「ネルチンスク条約直後清朝のアムール川左岸調査」『史林』80-5,

1997 年。

松浦茂「清代中期における三姓の移住と佐領編成」石橋秀雄編『清代中国の諸問題』山川出版社, 1995 年。

松浦茂「清の太祖ヌルハチ」『中国歴史人物選 11』白帝社, 1995 年。

三上次男・神田信夫編『東北アジアの民族と歴史』山川出版社, 1989 年(民族の世界史 3)。

三谷太一郎編『近代日本と植民地 8 アジアの冷戦と脱植民地化』岩波書店, 1993 年。

三谷太一郎「満州国国家体制と日本の国内政治」若林正丈編『近代日本と植民地 2 帝国統治の構造』岩波書店, 1993 年。

三谷祐美「満州国における『國語』政策」『東京女子大学紀要論集』46-2, 1996 年。

ミヤンガド・エルデニバートン「ノモンハン戦史における『関東軍独走』説への疑問」『日本モンゴル学会紀要』27, 1997 年。

宮沢恵理子『建国大学と民族協和』風間書房, 1997 年。

三好章「『満州国』の朝鮮人一間島における朝鮮人への皇民化教育について一」『中国 21』(愛知大学現代中国学部) 3, 1998 年。

水野明『東北軍閥政権の研究』国書刊行会, 1994 年。

水野直樹「呂運亨と中国国民革命」『朝鮮民族運動史研究』8, 1992 年。

水野直樹「東方被抑圧民族連合会(一九二五一九二七)について」狭間直樹編『中国国民革命の研究』京都大学人文科学研究所, 1992 年。

溝口敏行編『第二次大戦下の日本経済の統計的分析』一橋大学経済研究所溝口敏行研究室, 1993 年。

森久男「中国共産党の浹源県抗日根拠地」石原享一・内田知行ほか編『途上国の経済発展と社会変動 小島麗逸教授還暦記念論集』緑陰書房, 1997 年。

森久男「関東軍の内蒙工作と蒙疆政権の成立」『植民地帝国日本』岩波書店, 1992 年(岩波講座 近代日本と植民地 1)。

森久男「満州国興安北省三河地方の満蒙開拓団」『現代中国』71, 1997 年。

森久男「蒙古軍政府の研究」『愛知大学国際問題研究所紀要』97, 1992 年。

森久男「蒙疆政権と蒙古独立運動」『現代中国』72, 1998 年。

森久男「日本軍の天門会に対する懷柔策とその破産」『中国研究月報』536, 1992 年。

森政孝『中国侵略と七三一部隊の細菌戦—日本軍の細菌攻撃は中国人民に何をもたらしたか—』明石書店, 1995 年。

- 毛利和子「<ノート> 1940 年代内外モンゴル統一の試み—民族主義者ハフ
ンガをめぐって」『横浜市立大学論叢』49-2, 3, 1998 年。
- 毛利和子『周縁からの中国』東京大学出版会, 1998 年。
- 森川哲雄「ポスト・モンゴル時代のモンゴル」杉山正明ほか執筆『中央ユーラシアの統合』岩波書店, 1997 年(岩波講座世界歴史 11)。
- 諸星健児「奎章閣所蔵『撫遼俘勦建州夷酋王杲疏略』について」『東洋大学文学部紀要』20, 1995 年。
- 茂木敏夫「馬建忠の世界像」『中国哲学研究』7, 1993 年。
- 村田裕子「—満州文人の軌跡」『東方学報』京都 61, 1989 年。
- 村田裕子「『満洲国』文学の一侧面」山本有造編『『満洲国』の研究』京都大学人文科学研究所, 1993 年。

N

- NHK 取材班・臼井勝美『張学良の昭和史最後の証言』角川書店, 1991 年。
- 長岡新吉「『満洲国』臨時産業調査局の農村実態調査について」『経済学研究』(北海道大学経済学部) 40-4, 1991 年。
- 中田吉信「中国における回族問題」『就実論叢』22, 1992 年。
- 中田吉信「創建清真寺碑についての一考察」『史学論集』(就実女大) 11, 1996 年。
- 中見立夫「文書史料にみえるトクトホの“実像”」『アジア・アフリカ言語文化研究』48・49, 1995 年。
- 中見立夫「地域概念の政治性」溝口雄三ほか編『交錯するアジア』東京大学出版会, 1993 年(アジアから考える 1)。
- 中見立夫「モンゴルの独立と国際関係」溝口雄三ほか編『周縁からの歴史』東京大学出版会, 1994 年(アジアから考える 3)。
- 中見立夫「日本の東洋史学黎明期における史料への探求」『清朝とアジア：神田信夫先生古希記念論集』山川出版社, 1992 年。
- 中見立夫「わ國釣『内蒙古記聞』をめぐって」『清代史論叢：松村潤先生古希記念』汲古書院, 1994 年。
- 中村淳「チベットとモンゴルの邂逅」杉山正明ほか執筆『中央ユーラシアの統合』岩波書店, 1997 年(岩波講座世界歴史 11)。
- 中村勝範編『近代日本政治の諸相』慶應通信, 1989 年。
- 中村勝範編『満州事変の衝撃』勁草書房, 1996 年。
- 中山隆志『ソ連軍進攻と日本軍 満州—1945.8.9』国書刊行会, 1990 年。

- 並木頼寿「近代中国における王朝体制と国家の「統一」について」『人文科学紀要』(東京大学教養学部) 99, 1994 年。
- 日本社会文学会『近代日本と「偽滿州国」』不二出版, 1997 年。
- 西村成雄『張学良』岩波書店, 1996 年(現代アジアの肖像 3)。
- 西村成雄「張学良の政治的肖像」『現代中国』63, 1989 年。
- 西村成雄「張学良政権下の幣制改革」『東洋史研究』50-4, 1992 年。
- 西村成雄「張学良『遊歐体験』の精神史」『立命館経済学』44-6, 1996 年。
- 西村成雄『中国ナショナリズムと民主主義』研文出版, 1991 年。
- 西村成雄「日本政府の中華民国認識と張学良政権—民族主義的凝集性の再評価—」山本有造編『「満洲国」の研究』京都大学人文科学研究所, 1993 年。
- 西村成雄「一九四五年東アジアの国際関係と中国政治」『現代中国』71, 1997 年。
- 西澤泰彦「荒野に建てられた官衙建築—旧満洲国国务院—」(一)・(二)『亜鉛鉄板』(亜鉛鉄板会) 33-7, 8, 1989 年。
- 西澤泰彦「満洲国が生んだ双生児—旧満洲国第一庁舎と同第二庁舎—」『亜鉛鉄板』(亜鉛鉄板会) 33-5, 1989 年。
- 西澤泰彦「満洲国の建築組織について」『日本建築学会大会学術講演講概集 F』(日本建築学会) 1992 年。
- 西澤泰彦「『満洲国』の建設事業」山本有造編『「満洲国」の研究』京都大学人文科学研究所, 1993 年。
- 西澤泰彦「未完の宮廷建築—満洲国新宮廷」『亜鉛鉄板』(亜鉛鉄板会) 33-9, 1989。
- 西澤泰彦『海を渡った日本人建築家—20世紀前半の中国東北地方における建築活動—』彰国社, 1996 年。
- 西澤泰彦『図説「満洲」都市物語』河出書房新社, 1996 年。
- ノモンハン・ハルハ河戦争国際学術シンポジウム実行委員会編『ノモンハン・ハルハ河戦争』原書房, 1992 年。

O

- 大江志乃夫編『植民地帝国日本』岩波書店, 1992 年(岩波講座 近代日本と植民地 1)。
- 大江志乃夫・若林正文編『帝国統治の構造』岩波書店, 1992 年(岩波講座 近代日本と植民地 2)。

小原晃「日清戦争後の中朝関係」『史潮』新37(歴史学会), 1995年。
大石嘉一郎編『戦間期日本の対外経済関係』日本経済評論社, 1992年。
大豆生田稔「戦時食糧問題の発生」高崎宗司編『近代日本と植民地 5 膨張する帝国の人流』岩波書店, 1993年。
大澤博明「日清共同朝鮮改革論と日清開戦」『熊本法学』75, 1993年。
王柯「『東トルキスタン独立運動』の歴史」『海外事情』40, 1992年。
王柯『東トルキスタン共和国研究』東京大学出版会, 1995年。
王柯「『民族自決論』から『民族自治論』へ」『現代中国』69, 1995年。
王柯「モンゴル民族独立運動と中国共産党民族政策の成立」『中国研究月報』49-1, 1995年。
王柯「二重の中国」『思想』853, 1995年。
王慶祥編 錢端本訳『溥儀日記』学生社, 1994年。
王慶祥『溥儀・戦犯から死まで—最後の皇帝溥儀の波乱にみちた後半生—』学生社, 1995年。
王希亮「満蒙独立運動と大陸浪人」『金沢法学』35-1・2, 1993年。
岡洋樹「清朝とハルハ「八扎薩克」について」『東洋史研究』52-2, 1993年。
岡村敬二『遺された蔵書—満鉄図書館・海外日本図書館の歴史—』阿吽社, 1994年。
奥村弘「『満州国』街村制に関する基礎的考察」『人文学報』(京都大学人文科学研究所) 66, 1990年。
小貫雅男『モンゴル現代史』山川出版社, 1993年。
大谷正「中国および朝鮮における日本外務省の『新聞操縦』(一)」『専修法学論集』55・56, 1992年。

R

李盛煥『近代東アジアの政治力学』錦正社, 1991年。
林学忠「朝鮮対米開港をめぐる清国の朝鮮政策」『史峯』7, 1994年。
鹿錫俊「日中危機下中国外交の再選択」『一橋論叢』117-1, 1997年。
凌海成『最後の宦官—溥儀に仕えた波乱の生涯』河出書房新社, 1994年。
遼寧省档案館編『満鉄と盧溝橋事件』柏書房, 1997年。

S

崔斌子「中国における朝鮮族教育の四五年」『人文学報』(東京都立大学人文

- 学会) 259, 1995 年。
- 佐久間真澄・柴田しづ恵編『記録滿州国の消滅と在留邦人』のんぶる社, 1997 年。
- 佐々木史郎「アムール河下流域諸民族の社会・文化における清朝支配の影響について」『国立民族学博物館研究報告』14-3, 1989 年。
- 佐藤一郎「満人の中国支配、地域のイメージ」辛島昇・高山博編『地域のイメージ』山川出版社, 1997 年。
- 佐藤和彦『通化事件(増補版)』新評論, 1993 年。
- 沢井実「鉄道車輌工業と『満州』市場」大石嘉一郎編『戦間期日本の対外経済関係』日本経済評論社, 1992 年。
- 石剛『植民地支配と日本語』三元社, 1993 年。
- 澁谷浩一「康熙五十四(1715)年のジュンガルのハミ襲撃事件と清朝」『人文学科論集』(茨城大・人文) 30, 1997 年。
- 澁谷浩一「康熙年間の清のトクグート遣使」『茨城大学人文学部紀要・人文学科論集』29, 1996 年。
- 澁谷浩一「キャフタ条約以前のロシアの北京貿易」『東洋学報』75-3・4, 1994 年。
- 澁谷浩一「露清関係とローレンツ・ランゲ」『東洋学報』72-3・4, 1991 年。
- 澁谷由里「張作霖政権下の奉天省民政と社会」『東洋史研究』52-1, 1993 年。
- 澁谷由里「張作霖政権成立の背景」『アジア経済』38-5, 1997 年。
- 澁谷由里「『九・一八』事変直後における瀋陽の政治状況」『史林』78-1, 1995 年。
- 島崎久彌『円の侵略—円為替本位制度の形成過程—』日本経済評論社, 1989 年。
- 沈潔『「満洲国」社会事業史』ミネルヴァ書房, 1996 年。
- 沈潔「満州における社会事業植民地政策の策定過程」『紀要』(日本女大学・人間社会) 5, 1995 年。
- 晋林波「原内閣の対『満蒙』政策の新展開(一)」『名古屋大学法政論集』 145, 1993 年。
- 新免康「エスニシティー中国の場合」山内昌之・大塚和夫編『イスラームを学ぶ人のために』世界思想社, 1993 年。
- 新免康「「辺境」の民と中国」溝口雄三ほか編『周縁からの歴史』東京大学出版会, 1994 年(アジアから考える 3)。
- 新免康「東トルキスタンから見た中国」『中国: 社会と文化』(東大中国学会) 9, 1994 年。

- 新免康「新疆コルムのムスリム反乱(一九三一～三二年)について」『東洋学報』70・3・4, 1989年。
- 邵建国「満蒙鉄道交渉と東三省政権」『九州史学』(九州大学国史学研究会)103, 1992年。
- 朱建栄『毛沢東の朝鮮戦争』岩波書店, 1991年。
- 朱建栄訳『1945年満州進軍』三五館, 1993年。
- 副島昭一「『満洲国』統治と治外法権撤廃」山本有造編『『満洲国』の研究』京都大学人文科学研究所, 1993年。
- 十河俊輔「一九二〇年代満洲における独立運動団体と朝鮮人社会—正義府を事例として」『朝鮮学報』165, 1997年。
- ソーン, クリストファー著 市川洋一訳『満州事変とは何だったのか—国際連盟と外交政策の限界—』上・下, 草思社, 1994年。
- 孫安石「一九二〇年代上海の中朝連帶組織」『現代中国』70, 1996年。
- 孫安石「上海の朝鮮語『独立新聞』『近きに在りて』29, 1996年。
- 鈴木隆史『日本帝国主義と満州』上・下, 塙書房, 1992年。

T

- 田畠真弓「張公権と東北地方経済再開発構想」『経済学研究』(駒沢大学大学院)20, 1990年。
- 立花丈平『馬占山將軍伝—東洋のナポレオン—』徳間書店, 1990年。
- 太平洋戦争研究会『図説満州帝国』河出書房新社, 1996年。
- 秦國經編著 波多野太郎監訳・宇野直人・後藤淳一訳『溥儀』東方書店, 1991年。
- 田島信雄『ナチズム外交と「満州国」』千倉書房, 1992年。
- 竹中憲一『「満州」における中国語教育(5)』『人文論集』(早稲田大学法学会)36, 1998年。
- 田中克彦『モンゴルー民族と自由』岩波書店, 1992年(岩波同時代ライブラリー)。
- 田中克彦『草原の革命家たち 増補改訂版』中央公論社, 1990年(中公新書)。
- 田中恒次郎「『満州国』における労働問題」安藤彦太郎編『近代日本と中国』汲古書院, 1989年。
- 高橋泰隆「植民地の鉄道と海運」小林英夫編『近代日本と植民地 3 植民地化と産業化』岩波書店, 1993年。
- 寺山恭輔「1930年代初頭のソ連における内政と外交—満州事変への対応を

- 中心に」『ロシア史研究』60, 1997年。
- 寺山恭輔「1930年代初頭のソ連の対日政策—満州事変をめぐって」『ロシア研究』25, 1997年。
- 鐵山博「清代内蒙ゴの地商経済」『東洋史研究』53-3, 1994年。
- 鐵山博「清末内蒙ゴにおける『移民実辺』政策」『地域総合研究』(鹿児島経済大学地域総合研究所) 19-2, 1992年。
- 土田哲夫「一九二九年の中ソ紛争と「地方外交」」『東京学芸大学紀要 第3三部門社会科学』48, 1997年。
- 土田哲夫「東三省易幟の政治過程(一九二八年)」『紀要』社会科学 44 (東京学芸大), 1993年。
- 津田多賀子「日清条約改正の断念と日清戦争」『歴史学研究』652, 1993年。
- 塚瀬進「中国近代東北地域における農業発展と鉄道」『社会経済史学』58-3, 1992年。
- 塚瀬進『中国近代東北経済史研究』東方書店, 1993年。
- 塚瀬進「中国東北地域における日本人商人の存在形態」『紀要 史学科』(中央大学文学部) 42, 1997年。
- 塚瀬進「中国東北綿製品市場をめぐる日中関係」『人文研紀要』(中央大学人文学科研究所) 11, 1990年。
- 塚瀬進「奉天における日本商人と奉天商業会議所」波形昭一編著『近代アジアの日本人経済団体』同文館出版, 1997年。
- 塚瀬進「日中合弁鴨緑江採木公司の分析」『アジア経済』31-10, 1990年。
- 塚瀬進「1940年代における満洲国統治の社会への浸透」『アジア経済』39-7, 1998年。
- 塚瀬進編 市古宙三監修『近代日中関係史研究論文目録』龍溪書舎, 1990年。
- 楢木瑞生「中国東北の朝鮮族と教育権回収運動」『同朋大学論叢』70, 1994年。
- 楢木瑞生「満州国における学校体系の展開—間島省の『新学制』」『同朋大学論叢』77, 1998年。
- 楢木瑞生・原正敏・斎藤利彦「総力戦下における『満州国』の教育、科学・技術政策の研究」『学習院大学東洋文化研究所調査研究報告』30, 1990年。
- 「通商彙纂」不二出版, 1997年。
- 『通商公報』不二出版, 1997年。

U

- 内田尚孝「熱河をめぐる日中関係」『史学年報』(神戸大) 11, 1996 年。
- 植村美千子『満州国に生まれて一美千子一歳の終戦』勁草書房, 1994 年。
- 上野稔弘「現代中国民族政策年表（一九四九～一九七六）」『史峯』(筑波大学東洋史談話会) 別冊 8, 1995 年。
- 上杉允彦「皇民化運動期の植民地の初等教育状況」『高千穂論叢』(高千穂商科大学商学会) 25-1, 1990 年。
- 梅棹忠夫『回想のモンゴル』中央公論社, 1991 年。
- 梅棹忠夫・藤田和夫編『白頭山の青春』朝日新聞社, 1995 年。
- 梅津和郎編著『北東アジアの経済発展と貿易』晃洋書房, 1994 年。
- ウルフ, デヴィド著 高尾千津子訳「シベリア・北満をめぐる中国とロシア」溝口雄三ほか編『周縁からの歴史』東京大学出版会, 1994 年 (アジアから考える 3)。
- 臼井勝美『満州国と国際連盟』吉川弘文館, 1995 年。

W

- 和田春樹「朝鮮戦争」岩波書店, 1995 年。
- 和田春樹『金日成と満州抗日戦争』平凡社, 1992 年。
- 和田春樹「世界戦争の時代の終わりとソ連・東アジア」東京大学社会科学研究所編『国際比較(二)』1992 年 (現代日本社会 3)。
- 渡辺順一「日本植民地統治下での東アジア布教」『金光教学』31, 1991 年。
- 渡辺みどり『愛新覚羅浩の記録』文芸春秋, 1996 年。
- 渡辺修「順治年間（一六四四～六〇）の漢軍（遼人）とその任用」石橋秀雄編『清代中国の諸問題』山川出版社, 1995 年。

Y

- 山辺悠喜子『七三一部隊の犯罪』三一書房, 1993 年。
- 山口猛「擬制の王国としての『満映』」川村湊編『近代日本と植民地 7 文化の中の植民地』岩波書店, 1993 年。
- 山川暁『皇帝溥儀と閏東軍—満州帝国復辟の夢—』フットワーク出版社, 1992 年。
- 山川暁『満洲に消えた分村—秩父・中川村開拓団顛末期』草思社, 1995 年。

- 山本秀夫編『橋樸と中国』勁草書房, 1990 年。
- 山本有造「関東州貿易統計論」『人文学報』(京都大学人文科学研究所) 66, 1990 年。
- 山本有造「『満洲国』農業生産力の数量的研究」『アジア経済』38-12, 1997 年。
- 山本有造「『満洲国』の国民所得統計について」溝口敏行編『第二次大戦下の日本経済の統計的分析』1993 年。
- 山本有造「『満洲国』をめぐる対外経済関係の展開—国際収支分析を中心として—」山本有造編『『満洲国』の研究』京都大学人文科学研究所 1993 年。
- 山本有造編『『満州国』の研究』京都大学人文科学研究所, 1993 年。
- 山室信一『キメラ—満洲国の肖像』中央公論社, 1993 年 (中公新書 1138)。
- 山室信一「『満洲国』の法と政治」『人文学報』(京都大学人文科学研究所) 68, 1991 年。
- 山室信一「『満洲国』統治過程論」山本有造編『『満洲国』の研究』京都大学人文科学研究所, 1993 年。
- 山根幸夫「『満洲』建国大学に関する書誌」『近代中国研究彙報』18, 1996 年。
- 山根幸夫・藤井昇三・中村義・太田勝洪編『"近代日中関係史研究入門』研文出版, 1992 年。
- 山下祐作「僧格林沁軍の登場」野口鐵郎編『中国史における教と国家』雄山閣出版, 1994 年。
- 柳澤明「ブトハとフルンブルに於ける『八旗』の性格—特に理藩院との関係について」石橋秀雄編『清代中国の諸問題』山川出版社, 1995 年。
- 柳澤明「カルダンのハルハ侵攻 (一六八八) 後のハルハ諸侯とロシア」神田信夫先生古希記念論集編纂委員会『清朝と東アジア：神田信夫先生古希記念論集』山川出版社, 1992 年。
- 柳澤明「内蒙古自治区档案館所藏 (呼倫貝爾副都統衙門檔案)」『満族史研究通信』2, 1992 年。
- 柳澤明「新バルガ八旗の設立について」『清代史論叢：松村潤先生古稀記念』汲古書院, 1994 年。
- 柳澤明「清代黒龍江における八旗制の展開と民族の再編」『歴史学研究』(689), 1997 年。
- 柳沢遊「大連商業會議所常議員の構成と活動」大石嘉一郎編『戦間期日本の対外経済関係』日本経済評論社, 1992 年。

- 柳沢遊「『満州』における商業会議所連合会の活動」波形昭一編著『近代アジアの日本人経済団体』同文館出版, 1997年。
- 柳沢遊「『満州』商工移民の具体像」『歴史評論』513, 1993年。
- 柳沢遊編『貝原収蔵日記』柏書房, 1993年。
- 安田淳「中国の朝鮮戦争第一次、第二次戦役」『法学研究』(慶應義塾大学法学会研究会) 68-2, 1995年。
- 安田敏明「『王道楽土』と諸言語の地位」『アジア研究』42-2, 1996年。
- 安富歩「大連商人と満洲金円統一化政策」『証券経済』(日本証券経済研究所) 176, 1991年。
- 安富歩「満業の資金調達と資金投入」『人文学報』(京都大学人文科学研究所) 71, 1993年。
- 安富歩「満洲中央銀行の資金創出・資金投入メカニズム」『人文学報』(京都大学人文科学研究所) 69, 1991年。
- 安富歩「『満洲国』の経済開発と国内資金流動」山本有造編『『満洲国』の研究』京都大学人文科学研究所, 1993年。
- 安富歩「『満洲国』の金融」創元社, 1997年。
- 安富歩「満鉄の資金調達と資金投入」『人文学報』(京都大学人文科学研究所) 76, 1995年。
- 楊海英・新聞聰『チンギス・ハーンの末裔』草思社, 1995年。
- 楊暘著 土井徹・中村和之訳「明代の東北アジアシルクロードと文化現象としての蝦夷錦」『研究紀要』(北海道立北方民族博物館) 5, 1996年。
- 楊暘・徐清著 中村和之訳「清代黒龍江下流地域のガシャン制度と蝦夷錦」『アイヌ文化』(アイヌ無形文化伝承保存会) 19, 1995年。
- 吉田豊子「中国共産党の少数民族政策」『歴史評論』549, 1996年。
- 吉田豊子「内戦期中国共産党の少数民族政策」『近きに在りて』31, 1997年。
- 吉村道男「日露戦争期の日本の対蒙政策の一面—『喀喇沁王府見聞録』について」『政治経済史学』300, 1991年。
- 俞辛 「辛亥革命期の満州借款と『日中盟約』・小池宛書簡の探求」『アジア文化』18, 1993年。